

国際学会ルポ兼研究部会報告

AMCIS 国際会議 WS 開催報告／デジタルイノベーションの研究・実践

主査 増田佳正 (ますだ よしまさ)
慶應義塾大学大学院
東京理科大学経営学部
米国カーネギーメロン大学院

1. 国際学会ルポ (AMCIS2024 米国ソルトレイクシティ開催報告)

1.1 AMCIS カンファレンスの概要

米国ソルトレイクシティ (Salt Lake City, Utah) にて AMCIS2024 (Americas Conference on Information Systems) 国際カンファレンスが、2024年8月14日から17日にかけて開催された。主会場はソルトレイクシティの中心部にある Grand America Hotel であった。大会テーマは「Challenges with Digital Equity, and Social Entrepreneurship」としてイノベーションや Artificial Intelligence (AI) にも焦点を置いている。今回の AMCIS での論文の投稿件数は全体で 600 件を超え、参加者は約千人規模、採択率は 40–50% 程度であった。今回のソルトレイクシティ開催の AMCIS 国際会議での Panel 討議や周囲の様子を、次の写真 1 にて共有する。

AMCIS 国際会議は今回で第 30 回を迎え、記念すべき国際会議となった。AMCIS ではドクトラルコンソーシアム (Doctoral Consortium) も開催され、私も過去の AMCIS の当イベントに出席し、米国の大学院の教員の役割を担う上で大変役に立った。AIS (Association for Information Systems) の各地域における国際会議には、今回ご報告のアメリカ大陸 (Region 1) の AMCIS、および欧州、アフリカ、中

東地域 (Region 2) の ECIS (European Conference on Information Systems)、パシフィック・アジア地域 (Region 3) の PACIS (Pacific Asia Conference on Information Systems) がある。また、AIS が主催する世界全体での国際会議 ICIS (International Conference on Information Systems) は毎年 12 月に、上記 3 地域の中で、順次地域を移して開催されている。

1.2 Global AIS での活動

私自身の Global AIS での活動としては、各 AIS の国際会議や米国・欧州・豪州にて、私が 2018 年–2019 年初めにかけて Springer Nature 社より出版した Book 「Enterprise Architecture for Global Companies in a Digital IT Era: AIDAF」[1] 関係を中心に、AIS の各国際会議 (AMCIS, PACIS) にて 2020 年までに Full Paper 採択を受け発表、2021 年に AIS Distinguished Member に選出された。その後 2022 年以降も「グローバル組織と Leadership」分野を含め順調に AMCIS2022 国際会議で Workshop 採択と開催、ICIS2022 国際会議での Panel 採択と開催 (SIG Education) 等を成功裡に遂行、合わせて私の上記書籍 [1] が 2023 年 1 月に「Global AIS – Outreach Practice Publication Award」をアジア圏 (日本含む) として初めて受賞した。更に Global AIS の Director (Leadership in IT) に選考され着任、2023 年 12 月の ICIS 国際会議でも Panel 採択と開催 (Main Conference/SIG Education 両方) を成功裡に実施、2024 年にも私が「Global AIS – Outstanding Contribution Award (Leadership in IT)」を受賞、2023 年–2024 年には上記の私も担当する SIGLEAD (Leadership in IT) が「Global AIS Outstanding Communities」に選出されている。



写真 1 AMCIS の会場 (Panel 討議) や周囲の様子

1.3 AMCIS 採択 Workshop, 基調講演等

AMCIS2024 国際会議での基調講演は、先の写真1の「Keynote Panel Session」の形式で今回8月16日(金)午前11時(米国現地時間)より行われた。上記のPanel形式の基調講演のタイトルは「AI-Driven Innovation in Digital Social Entrepreneurship: Shaping the Future of Research and Practice」であり、Panelistとして米Microsoft社 Product Director の Jared Andersen 氏, Brigham Young University の Bonnie Anderson 教授, Anctry.com 社 CEO の Paul Allen 氏らが登壇した。

また、AMCIS2024でのWorkshopは8月14日(水)に7件、8月15日(木)に4件が実施され、各WSのテーマに関心を持つ聴衆が集まった。私が議長を担当したAMCIS採択Workshop「Next Generation IS Leaders – Roles for Educational Institutions and Professional Associations (SIGLEAD)」は8月14日(水)午前8時30分より正午(米国現地時間)まで実施され、20名を超えるProfessorを中心とした参加者が集まり、非常に活発な議論も展開された。実際のWS講演とPanel討議の内容としては、前述の2022年12月にICIS国際会議(デンマーク開催)にて「Global AIS – Outreach Practice Publication Award」を受賞した私の書籍[1, 2]で説明しているデジタルIT時代のデジタル・トランスフォーメーションの進め方(AIDAF Framework)、およびこの中でAI戦略策定と適用・推進の方法[2, 3]を私(増田)より説明し、「Major changes in technology and adoption」「Transdisciplinary nature of IS/IT (CS, IS, SE, law, etc.)」「CIO, Chief AI Officer, etc. leading digital innovation, how to prepare next gen」「Industry partnerships for experiential learning, skills gap」等の題目の各討議を、私と米国(Prof. Anitha, Dr. Jing Tang, Dr. Sam)、カナダ(Dr. Stephane)の各教授陣、米国ISACA(Jeff – Sr. Dir, Academic Relationship)により行った。合わせて当WS参加者との討議も活発に進行した。今回のAMCIS国際会議のWorkshopとPanel討議の様子を、次の写真2にて共有する。

2. 研究部会報告(デジタル戦略アーキテクチャ研究会)

2.1 AIDAF FrameworkとDigital Innovation

本研究部会の方は日本で年数回の頻度で開催し立ち上げ、テーマ分野の性格上、デジタル戦略とグローバル組織の両面から、有識者の方にも参画いただくオープンな形での活動を進めた。一方で、2021年に米国ISACA国際本部より前述の私の書籍[1]とAIDAF(Adaptive Integrated Architecture Framework)が第1回目の「Global Innovative Solution Award」を受賞してから、米国中心Globalにて上記書籍[1]とFrameworkが「Digital TransformationのためのFramework」として「Global Innovation」の一つと認知され、AISの各地域の国際会議でも同様な協議がされている[4]。

実は、2019年に上記書籍[1]を出版した当初、私は米国Carnegie Mellon大学院のComputer Science部門に研究員として在籍していたが、米国ペンシルベニア州ピッツバーグにある米Carnegie Mellon大学Computer Science部門のビル(Main Streetの向かい側)に、米Carnegie Mellon大学院MBAスクールのビルが存在し、そこでDigital Innovationと戦略を専門とするSean Ammirati教授と出会い、彼が提唱しているDigital Innovation Approach[5]の説明を受け、上記書籍[1]のAIDAFでの適用と促進を勧められた。次の表1に上記Approachの概要を示す。



写真2 AMCIS国際会議でのWorkshopの様子
(Next Generation IS Leaders – Roles for Educational Institutions and Professional Associations)

下の表1のDigital Innovation Approach [4]は、3つのPhaseから成る。1つ目のPhaseは「(1) 4つの前提条件 (Four Prerequisites)」であり更に上記 (1) の中で4つのStep「Founder's Core Vision」「Scalable Idea」「Solve a Real Problem」「An Excellent First Interaction」で構成される [4]。これらの4つの前提条件を満たした後、Digital Innovationを立ち上げるために、2つ目のPhase「(2) 促進/加速へのイベント (Catalyzing Events)」に進む。上記 (2) の中で4つのStep「Double Trigger Events」「Drafting Off Platforms」「Optimizing Algorithms」「Viral Growth」にて構成される [4]。Phase (1) とPhase (2) が成功裡に適用し実施されると初期のDigital Innovationが立ち上がり、その後の持続的イノベーションに向けて3つ目のPhase「(3) 持続的成長への要素 (Elements for Sustained Long-Term Growth)」に着手できるようになる [4]。前述の米Carnegie Mellon MBAのSean教授の推奨の通り、AIDAF Framework [1] についてもDigital Innovation Approach [4] のPhase (1) とPhase (2) を適用し実践してきた結果、実際にDigital Innovationが米国Globalを中心に立ち上がってきた次第である。

2.2 デジタルイノベーション・アプローチの実践 —4つの前提条件/促進・加速へのイベント

実際のDigital Innovation Approach [4] のAIDAF Frameworkへの適用と実践に際しては、まずPhase

表1 Digital Innovation ApproachのPhase/Step [4]

3つのPhase	各Phaseの要素, Step
(1) 4つの前提条件 (Four Prerequisites)	Founder's Core Vision
	Scalable Idea (規模の経済での拡大可能なIdea)
	Solve a Real Problem
	An Excellent First Interaction
(2) 促進/加速への イベント (Catalyzing Events)	Double Trigger Events
	Drafting Off Platforms (プラットフォームをドラフト)
	Optimizing Algorithms (アルゴリズムの最適化)
	素早い拡散的成長 (Viral Growth)
(3) 持続的成長への要素 (Elements for Sustained Long-Term Growth)	

(1)「4つの前提条件」の「Founder's Core Vision」を前述の「Global Innovative Solution Award (米国ISACA国際本部)」の授賞式のインタビューにて回答し公表している。更にPhase (1) の「Scalable Idea」も業種横断的に展開し「Solve a Real Problem」のStepも国際的な情報漏洩の問題に対応 [6]、良好な反応を得た。更に、Phase (1) の「An Excellent First Interaction」のStepも、2021年より開始した米Carnegie Mellon大学院ISRのAIDAF教育コースについて、世界Top5に入る大手Global IT企業の海外EAコンサルティング部門や2023年1月には日本のデジタル庁の方々に受講いただき、良好なFeedbackが得られた。デジタル庁の事務方トップであるデジタル監浅沼氏と意見交換した様子を、下の写真3にて共有する。その後も、Phase (2)「促進/加速へのイベント (Catalyzing Events)」のStep「Double Trigger Events」にてAISの国際会議AMCIS, ICISでのWSとPanel等での連続採択にて促進/加速への各イベントも開催され、各Phase「Drafting Off Platforms」「Optimizing Algorithms」についても関連参照アーキテクチャや分析アルゴリズムを各国際ジャーナル誌にて提案検証し解説している。

3. おわりに

本稿にてご説明した通り、国際的に私の書籍 [1] とAIDAF FrameworkがGlobal AISや米国ISACAを中心に相当広まり、今後は更に米国カリフォル



写真3 デジタル庁のデジタル監-浅沼氏
(撮影=2025年1月)

ニア州立大学大学院やメリーランド州立大学でも AIDAF Framework も基にした同教育コース科目が計画され、更なるエコシステム社会に向けた共同研究も米国の有力大学院・研究所と協議中である。

日本でもデジタル庁の方々に米国カーネギーメロン大学院の同教育コースを 2023 年 1–3 月に実施した。今後も施策を検討していく予定である。日本での本研究会についても、今後 1 年の活動で日本での啓蒙活動も行っていく予定である。

参考文献

- [1] Masuda, Y., and Murli, V., *Enterprise Architecture for Global Companies in a Digital IT Era: Adaptive Integrated Digital Architecture Framework (AIDAF)*, Springer Nature, 2019.
- [2] Masuda, Y., Zimmermann, A., Bass, M., Nakamura, O., Shirasaka, S., and Yamamoto, S., "Adaptive Enterprise Architecture Process for Global Companies in a Digital IT Era," *International Journal of Enterprise Information Systems*, Vol. 17, No. 2, 2021, pp. 21–43.
- [3] Masuda, Y., Piest, J.P.S., Jain, R., Shepard, D., Nakamura, O., Toma, T., and Shirasaka, S., "Vision Paper for Enabling Generative AI Digital Platform Using AIDAF in Healthcare and Manufacturing Industry," in Zimmermann, A., Schmidt, R., Jain, L. C., and

Howlett, R. J. (eds.), *International KES Conference on Human Centred Intelligent Systems*, Springer Nature, 2024, pp. 177–190.

- [4] Masuda, Y., Gagnon, S., Jain, R., and Angle, J., *Architecture Strategy and Business Technology Management for Digital Leaders*. ICIS, 2023.
- [5] Sean, A., *The Science of Growth: How Facebook Beat Friendster—and How Nine Other Startups Left the Rest in the Dust*, St. Martin's Press, 2016.
- [6] Masuda, Y., Shepard, D., Yamamoto, S., "Adaptive Governance on Electronic Health Record in a Digital IT era," AMCIS, Cancun, 2019.

略歴

増田佳正（ますだ よしまさ）

慶應義塾大学理工学部卒，博士（SDM 学：慶應大学）。IBM 海外赴任（トルコ，上海）。複数の日系グローバル企業で戦略マネジメント職，Sr. IT Director（CIO）を担当。2019 年カーネギーメロン大学研究員，2021 年より米カーネギーメロン大学院教員，慶應大学院特任准教授・教授。NTT データ経営研究所シニアマネージャ。2022 年より Global AIS Director（Leadership in IT），東京理科大学経営学部国際デザイン経営学科教授。2024 年より Global AIS Vice President（VP-Leadership in IT）に選出。